

センターだより

第84号

令和7年12月19日 発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

「あおもり教育研究発表会2025」の様子

11月14日（金）に「あおもり教育研究発表会2025～未来につなぐ青森の教育～」が開催されました。

当日の参加やオンライン、オンデマンドでの参加を合わせ110名の方々から申込みをいただき、盛大に開催することができました。

講師の川俣先生をはじめ、発表者、ご来場の皆様、誠にありがとうございました。

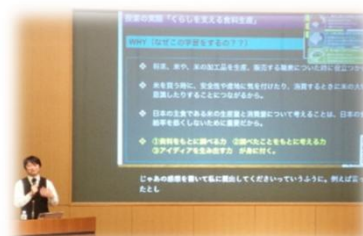
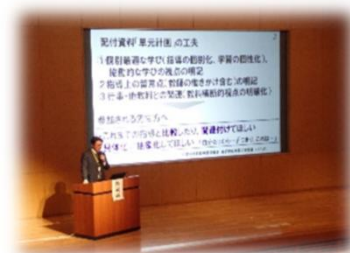
今後、研究成果を随時Webページに掲載していく予定です。

【講演会】

「学びのユニバーサルデザイン（UDL）の枠組みによる主体的な学習者の育成」をテーマに、北海道教育大学教職大学院准教授・川俣智路氏に御講演いただきました。講演では、UDLの視点に立った豊富な授業実践を示していただき、多くの発見や刺激を得るとともに、今後の学びを考える上での課題意識を高める機会となりました。

来場者アンケートでは、「UDLについて、より深い理解につながりました。」「質疑応答の中で授業UDとUDLとの違いについて取り上げられていましたが、その違いが自分の中で明確になり、学校現場でどのような考え方ややり方で取り入れられるのか理解を深めることができました。」

「とてもわかりやすく、理念から実践までを示してくださいました。内容の充実感もさることながら、デジタルキャンパスを使って研修参加者の声を拾い上げやすくするという、この講演そのものがUDLの枠組みになっている工夫に感動しました。」といった感想が寄せられました。



川俣 智路 氏

【研究員研究発表】

3名の2年目研究員が研究発表を行い、生徒指導や生成AI、教科指導に関する研究の成果が示され、活発な質疑応答が行われました。

- ① 小学校高学年における心の居場所となる学級づくりに関する研究
ー 共感的な人間関係育成プログラムの作成と実践を通してー（教育相談課 研究員 中嶋 龍之介）
- ② 小学校中学年における「批判的思考力」の育成に向けた学習プログラムの開発・実践
ー 児童の深い学びにつなげる生成AIの活用を通してー（産業教育課 研究員 中川原 泰文）
- ③ 中学校保健体育科体育分野におけるアダプテッドエコロジカルモデルに基づいた授業実践に関する研究
ー 生徒の学習観の変容に着目してー（特別支援教育課 研究員 沖沢 都）



【センター研究発表】

「一人一人の子供を主語にする学校教育の実現に向けて」という研究テーマのもと、以下の研究グループ・ユニットが発表を行いました。

◆義務教育課グループ

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の在り方の研究」

◆特別支援教育課グループ

「省察と対話を核とした授業研究モデルの開発 ～子供の学びの事実を起点とした授業研究の在り方～」

◆高校教育課グループ

【探究的な学びユニット】「教科における探究的な学びに関する研究」

【特別支援教育ユニット】「青森県内の高等学校における特別な配慮を要する生徒へのアプローチに係る研究」

【学習評価等ユニット】「『思考・判断・表現』、『主体的に学習に取り組む態度』の評価方法の検討」

◆高校教育課・産業教育課グループ

【遠隔教育ユニット】「遠隔授業（講習）による個別最適な学びと協働的な学びの実現」

「生徒の多様な学びを支える遠隔教育の実践について」

◆教育相談課グループ

「グループ・アプローチによる安心できる学級づくりの支援～子供が自分らしくいられる関係性の育成～」



センターセミナーの様子

セミナーⅠ 不登校児童生徒への支援

FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男 氏

7月26日（土）に花輪敏男氏を講師に迎え、これまでの経験を踏まえ教師や家族の具体的な対応をまとめた「FR式不登校対応チャート」を中心に、「不登校児童生徒への支援」というテーマで御講演いただきました。

不登校を怠けではなく心のエネルギー不足と捉え、安心の確保、支援による回復、再登校への準備、登校後のフォローまでを段階的に支える枠組みを紹介していただきました。

【参加者の感想】

- ・不登校の子供には、自分で考え、判断し、自らの足で歩む力を育んだうえで、再登校へとつなげていくことが最善だとも感じました。「親子で話し合うこと」が本人にとってエネルギーとなることを知ることができ、大変参考になりました。
- ・学校と家庭が協力して、対応することの大切さを改めて実感したので、ポジティブに不登校対応していければと思います。



セミナーⅡ もっと聞きたい！ 授業のユニバーサルデザイン Vol.3 ～あらためて「焦点化」を考える～

星槎大学大学院 教授 阿部 利彦 氏

8月23日（土）に阿部利彦氏を講師に迎え、「もっと聞きたい！授業のユニバーサルデザイン Vol.3～あらためて『焦点化』を考える～」をテーマに御講演いただきました。

御講演では、日本各地で取り組まれている具体的な実践事例の紹介に加え、参加された先生方の事前アンケートに寄せられた実践内容もスライドに反映してくださり、「焦点化」を取り入れた授業づくりの多くのヒントを得ることができました。当日は68名の方からアンケート回答をいただき、「実践の参考になった」という声が多く寄せられました。

【参加者の感想】

- ・「焦点化が引き算の美学」というフレーズを大事に授業を行いたい。
- ・「ゴールの焦点化」の重要性について、心に留まりました。授業UDに関する学びに留まらず、学校組織づくりにも言えると感じました。